

研究報告

講座『みんなで町の自然を調べよう～身近な草木の実と冬の花しらべ～』及び学習参考資料展『みんなで調べた 大磯町の花と実 2012-2013・冬』の実施報告

* 北水 慶一

1. はじめに

大磯町郷土資料館では、前々年度、前年度に引き続き、教育普及活動事業と企画展事業を連動させた企画を実施した。教育普及活動事業に位置づける植物の分布調査と企画展事業とを組み合わせた企画である。これまでに春、夏、秋と季節ごとに植物調査を続けてきており、本企画では冬の植物を対象とした。企画の進め方は、植物調査と企画展の準備を同時並行で進め、企画展会期中にも調査を行ない、その都度、調査の結果を展示に反映させるというやり方で進めた。本稿では企画の進行を紹介するとともに一連の調査の結果を紹介する。

2. 講座『みんなで町の自然を調べよう～身近な草木の実と冬の花しらべ～』の実施

2-1. 調査方法

1) 調査員

調査員は植物調査に慣れている方、不慣れな方を問わず、町広報で募集し、参加者を募った。呼びかけに対して大磯町及び近隣市町在住の 32 人の方々にご応募いただいた。

2) 調査期間

調査期間は1年間を24の時期に分ける二十四節気をもとに、2012年の立冬(11月7日)から2013年の立春の前日(2月3日)までを調査期間とした。

3) 調査の種類と対象植物

参加者との話し合いのもと5種類の調査を実施することにした。「赤い実をつける草木の分布調査」、「ドングリをつける樹木の分布調査」、「帰化植物(セイタカアワダチソウ・オオブタクサ)の分布調査」、「町中の大きな木調査」、「町中の珍しい木調査」である。

「赤い実をつける草木の分布調査」ではアオキ、ガマズミ、クコ、サンゴジュ、ナンテン、ニシキギ、ニセジュズネノキ、ヒヨドリジョウゴ、マンリョウ、ヤブコウジの10種類を対象とした。「ドングリをつける樹木の分布調査」では、スダジイ、ツブラジイ、マテバシイ、コナラ、クヌギ、カシワ、ウバメガシ、アラカシ、シラカシ、ウラジログシの10種類を対象とした。帰化植物の分布調査は、本町において帰化植物はたくさんの種類が確認されているが、中でも特によく知られるセイタカアワダチソウとオオブタクサの2種類を対象とした。



図1 調査の様子

「町中の大きな木調査」、「町中の珍しい木調査」では、事前に対象とする樹木を選ばず、「大きな木調査」に関しては胸高直径が1メートルより大きなものを選び出し、「珍しい木調査」は、町中を歩いた中であまり見かけない、珍しい木を選び出すことにした。

4) 調査方法

調査は合同調査、個別調査の2種類の方法で実施した。

合同調査は種の見分け方や確認できそうな環境等の情報交換を目的に調査期間中に4回行なった。運動公園や大磯駅等参加者が集まりやすい場所に集合し、巡回後また同じ場所で解散できるようにコースを組んだ。個別調査では大磯町を17の区域に分け、それぞれの区域に担当者をあてて、都合のよい時に巡回できるようにした。本調査で巡回したコースは図2に示すとおりである。

2-2. 調査の結果

それぞれの調査の結果は、図3から図24のとおりである。図3から図22については、地図上に確認したポイントを赤い丸印で示している。実際の調査では確認した場所で株数を数え、10株以上と10株未満の場所では表記の仕方を変えたが、本稿では、確認したポイントのみを紹介している。

1) 赤い実をつける草木の分布調査

調査対象とした10種類をすべて確認することができた。赤い実というタイトルの調査であったが調査期間中、アオキは赤みを帯びず、緑色のままであった。対象とした10種類の中では、確認地点の数はアオキが最も多かった。アオキは実をつけていない雄株も多数、確認できたが、今回の調査では実をつけている雌株のみを記録した。逆にあまり確認できなかった種類はニシキギとニセジュズネノキで、ニ

(* 当館学芸員)

シキギが1箇所、ニセジュズネノキが2箇所のみだった。生息環境という点ではアオキ、ガマズミ、ニセジュズネノキ、ヒヨドリジョウゴは丘陵地に多く、クコ、サンゴジュ、ナンテン、ニシキギ、マンリョウ、ヤブコウジは市街地に多かった。

2) ドングリをつける樹木の分布調査

今回の調査では、ドングリの確認調査を基本として進めた。樹木本体は見かけるが、ドングリをつけていない木や周辺に全くドングリが落ちていない木などは記録から外した。

当初はスダジイ、ツブラジイ、マテバシイ、コナラ、クヌギ、カシワ、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシの9種類を対象に調べていたが、ウバメガシも数箇所を確認できたので、1種類加えて10種類を対象とした。よく確認できたのはスダジイ、コナラ、アラカシだった。生息環境という点ではスダジイ、コナラ、クヌギ、アラカシは丘陵地に多く、ツブラジイ、マテバシイ、ウバメガシ、シラカシは市街地の公園、広場などでよく見られた。

3) 帰化植物(セイタカアワダチソウ・オオブタクサ)の分布調査

調査期間中、セイタカアワダチソウはかろうじて花が残る状態であったが、オオブタクサは既に花期が過ぎ、枯れた状態だった。

セイタカアワダチソウは町内全域で多数確認することができた。特に空き地や休耕田でよく見られた。オオブタクサは河川沿いや丘陵地の道路沿いで確認できた。完全に枯れ、見分けが付きづらいものも見られたため、実際の株数、確認地点数はもっと多いものと思われる。今後、オオブタクサの分布状況を調

べる機会があれば、時期を考慮する必要がある。

4) 町中の大きな木調査

本調査では、18種48本を記録した。結果は図23のとおりである。樹種としては、エノキが一番多く9本が記録された。次にケヤキ、タブノキ、サクラが多く、それぞれ8本、7本、6本であった。

高麗山、鷹取山等の丘陵地で数本確認記録があったが、多くは市街地で確認されたものであり、あらためて住宅地のそばに大木が残っていることが分かった。

5) 町中の珍しい木調査

本調査では、9種13本を記録した。結果は図24のとおりである。調査において2本の合体木が確認できた。カゴノキとイヌシデの合体木とジュウガツザクラとスダジイの合体木である。本町高麗地区にシニッケイという、スダジイとヤブニッケイの合体木があり、町の天然記念物に指定されているが、今回の調査で確認できた2本の合体木はあまり知られていないものであった。

その他に珍しい樹木として、カエデ科のハナノキがあげられる。大磯駅近くの公園に植樹されたものであるが、本町の公園、空き地等では全く見られず、葉の形が変わった樹木があると話題になり、本調査で確認、記録に至った。

本調査で記録された樹木は13本と少なかった。これは珍しいかどうかという判断基準が調査者によってまちまちで、候補としてあげながらも記録していない樹種が多いのではないかと考える。調査者全員で一同に悉皆調査をする等、調査方法を検討する必要があると思われる。



図2 巡回したコース

大磯町1995年発行「大磯町全図(1万分の1)」の地図を縮小して使用)

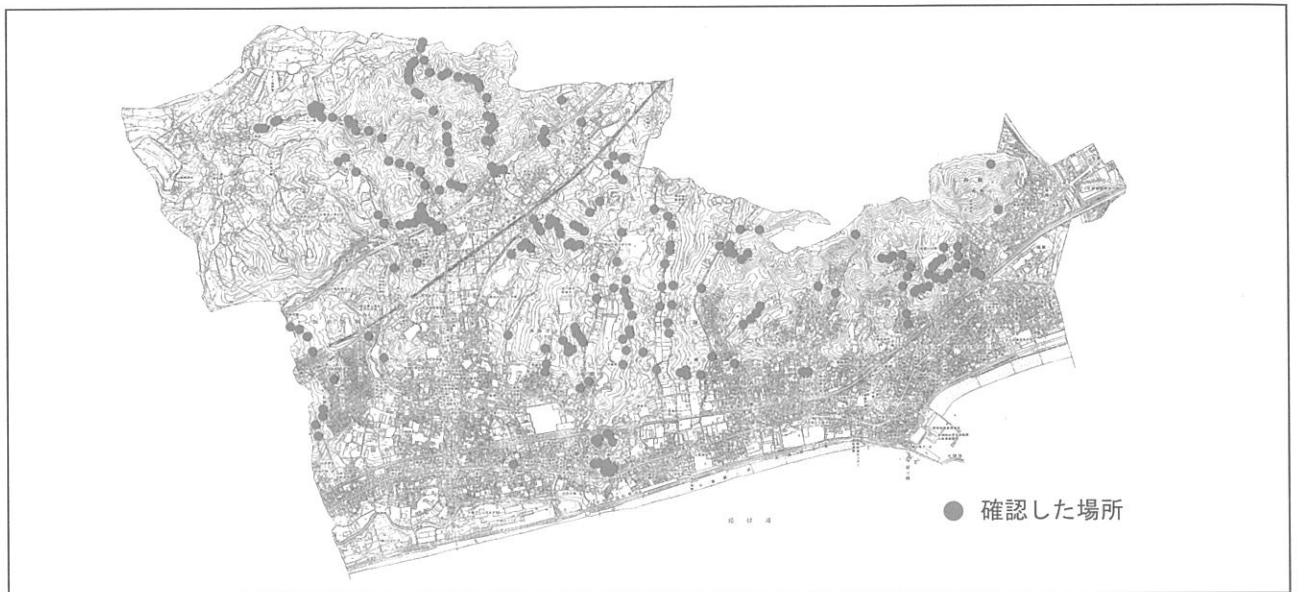


図3 アオキの分布



図4 ガマズミの分布



図5 クコの分布

※ 30～38 ページの地図は、いずれも大磯町 1995 年発行「大磯町全図（1 万分の 1）」の地図を縮小して使用



図6 サンゴジュの分布



図7 ナンテンの分布



図8 ニシキギの分布



図9 ニセジュズネノキの分布



図10 ヒヨドリジョウゴの分布



図11 マンリョウの分布



図 12 ヤブコウジの分布



図 13 スダジイの分布



図 14 ツブラジイの分布

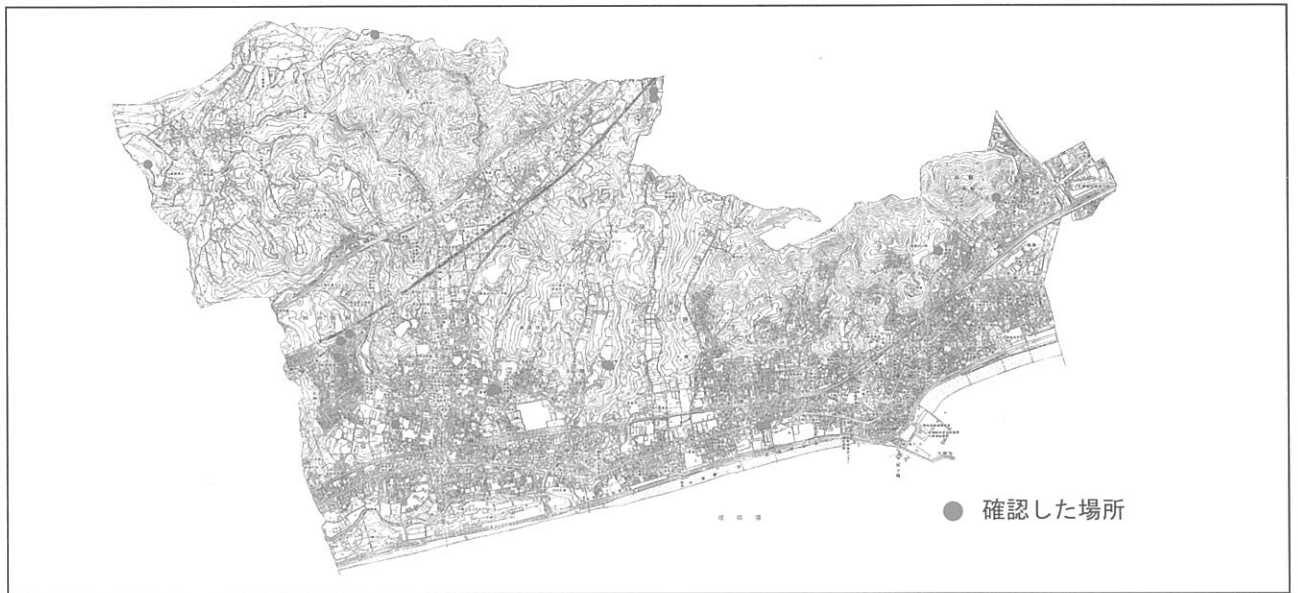


図 15 マテバシイの分布



図 16 コナラの分布

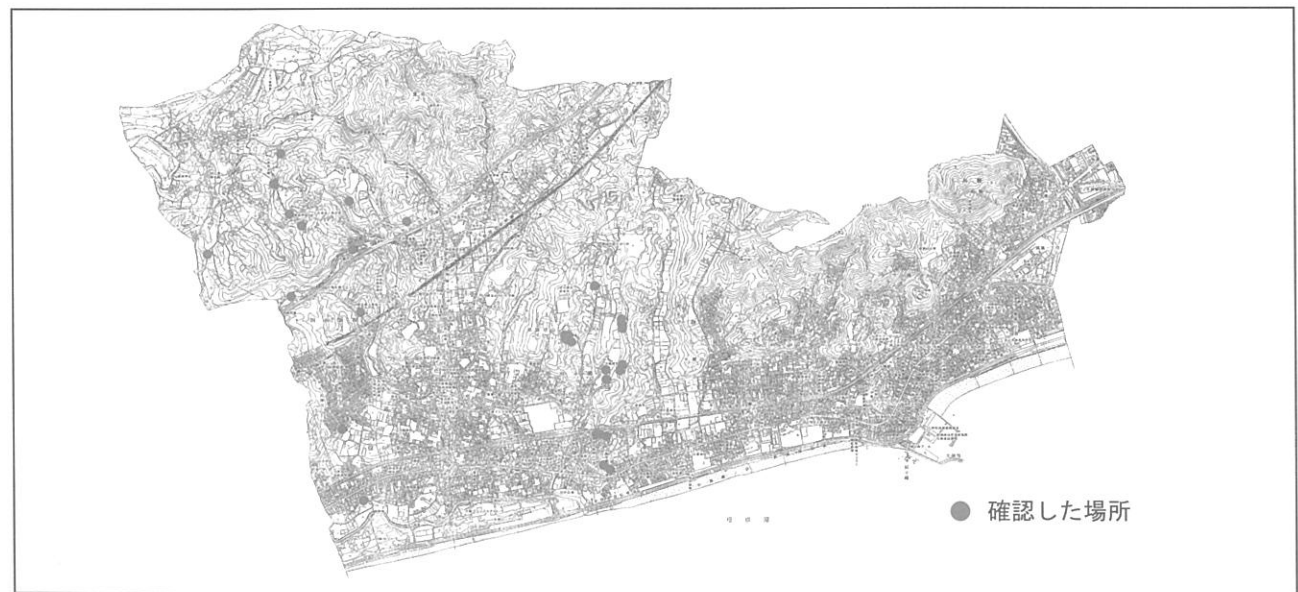


図 17 クヌギの分布

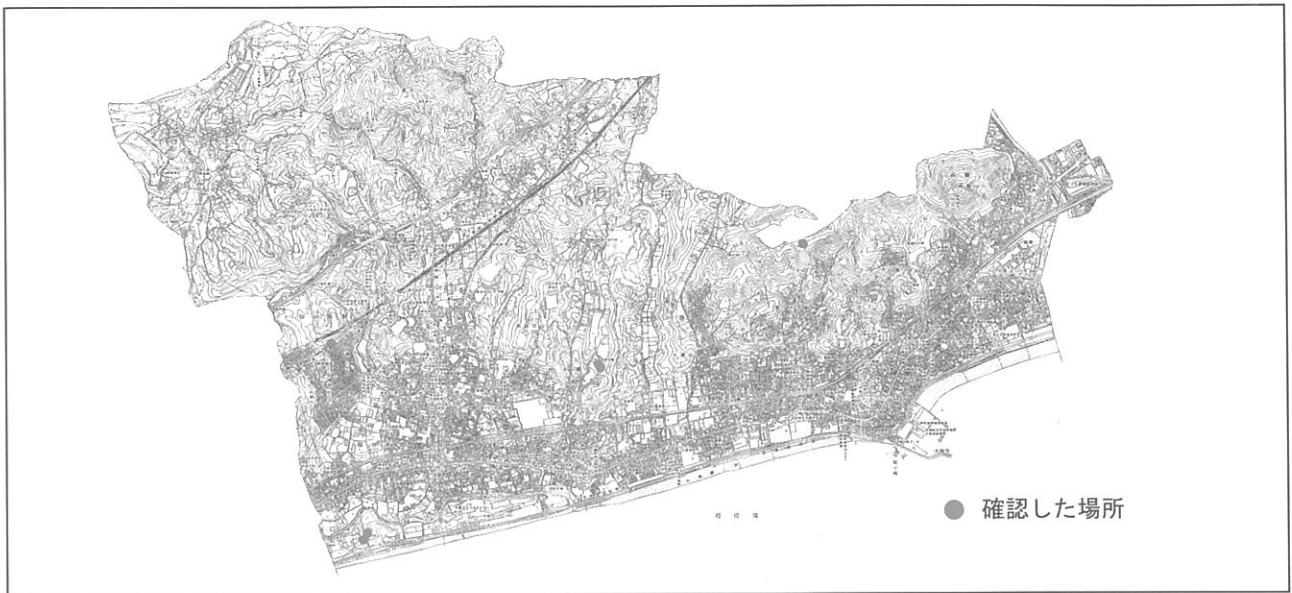


図 18 ウバメガシの分布



図 19 アラカシの分布



図 20 シラカシの分布



図 21 セイタカアワダチソウの分布

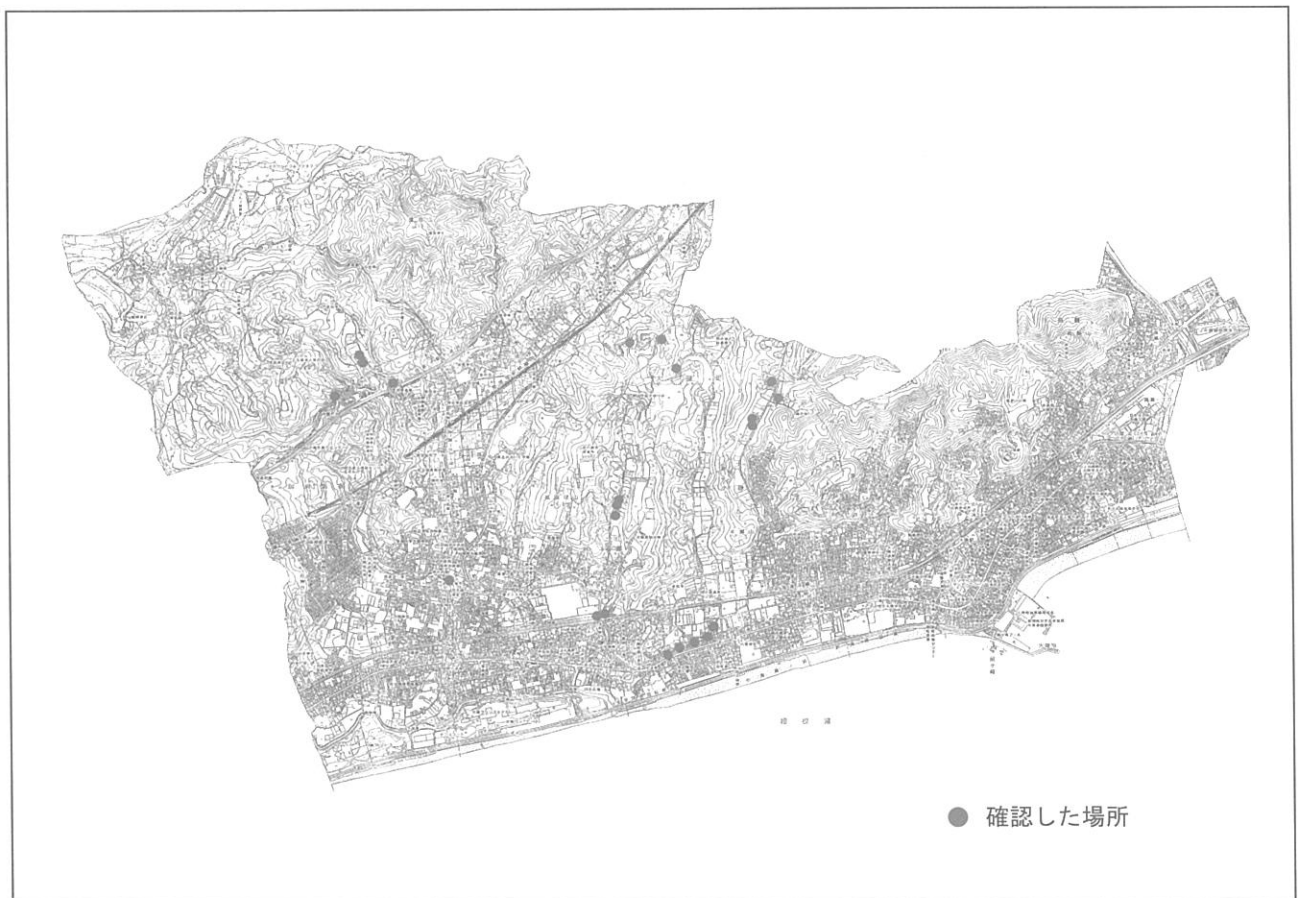
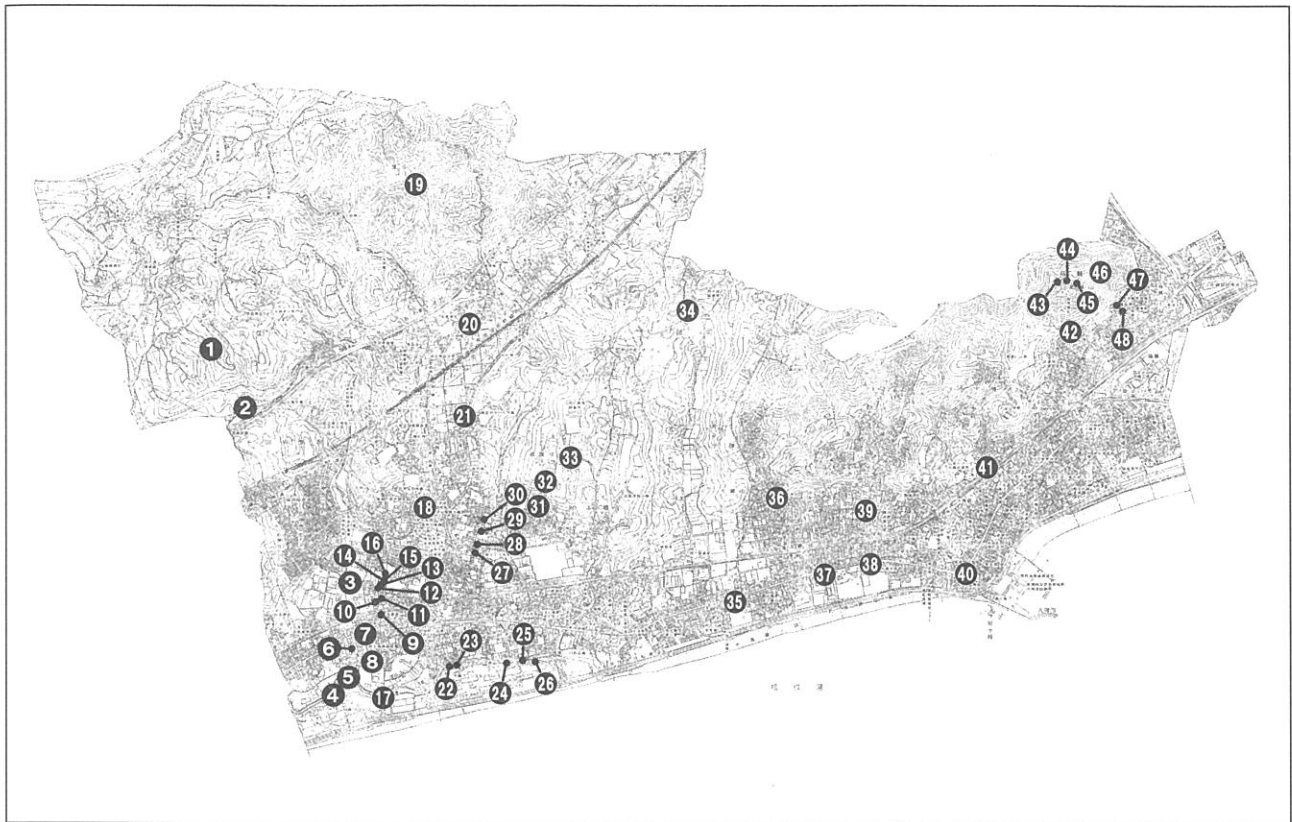
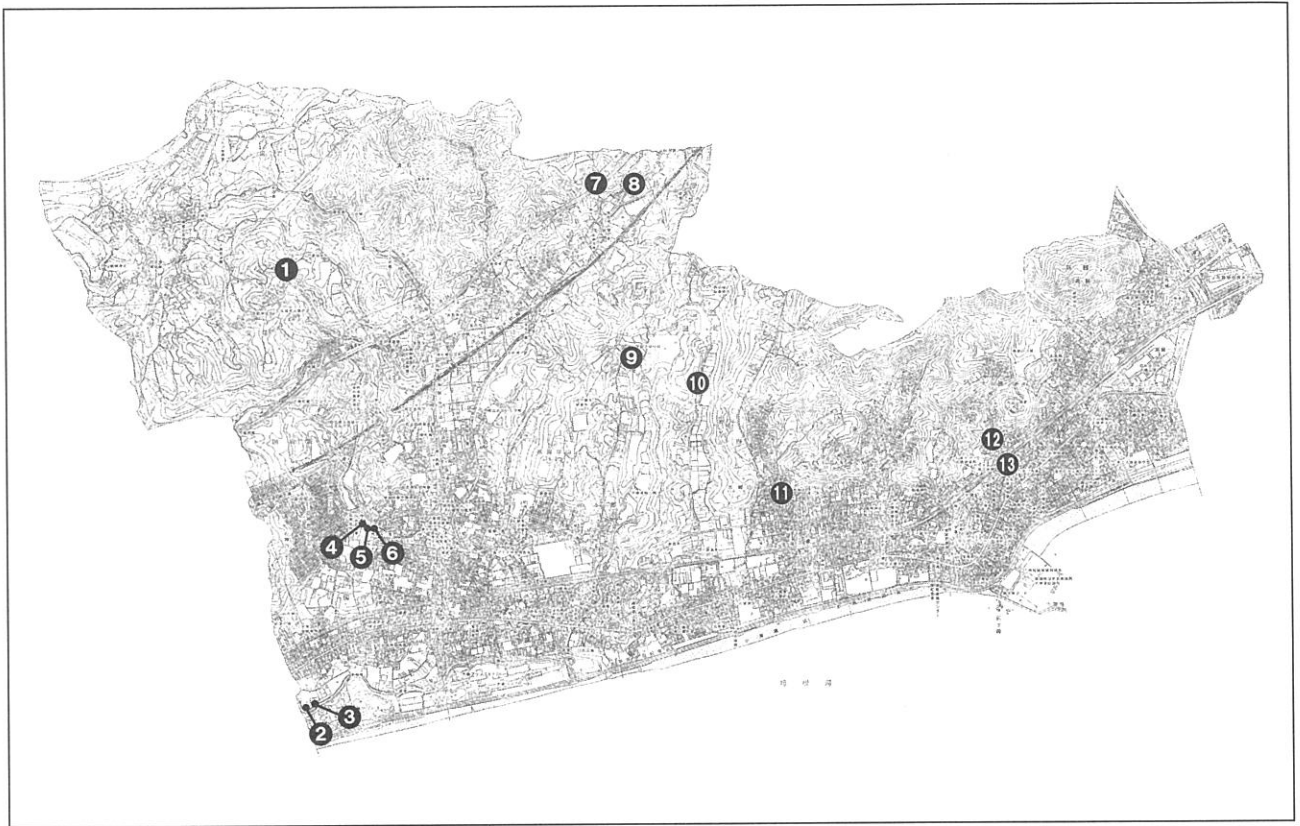


図 22 オオブタクサの分布



No.	樹種名	No.	樹種名	No.	樹種名
1	エノキ	17	エノキ	33	コナラ
2	クヌギ	18	クスノキ	34	ケヤキ
3	タブノキ	19	カゴノキ	35	クスノキ
4	サクラ	20	ケヤキ	36	クスノキ
5	エノキ	21	エノキ	37	エノキ
6	クスノキ	22	サクラ	38	クロマツ
7	マキ	23	サクラ	39	タブノキ
8	エノキ	24	サクラ	40	クロマツ
9	カヤ	25	サクラ	41	イチョウ
10	ケヤキ	26	サクラ	42	ホルトノキ
11	ケヤキ	27	ケヤキ	43	ケヤキ
12	タブノキ	28	ムクノキ	44	ケヤキ
13	タブノキ	29	エノキ	45	ケヤキ
14	シロダモ	30	エノキ	46	メタセコイア
15	スダジイ	31	タブノキ	47	タブノキ
16	タブノキ	32	エノキ	48	ナギ

図 23 町中の大きな木調査の結果



No.	樹 種 名
1	ガゴノキとイヌシデの合体木
2	モモ (紅白の花)
3	オニグルミ
4	オニグルミ
5	オニグルミ
6	オニグルミ
7	キ リ
8	センダン
9	アオギリ
10	ジュウガツザクラとスダジイの合体木
11	ナ ギ
12	アオギリ
13	ハナノキ

図 24 町中の珍しい木調査の結果

表1 展示した冬の花の写真リスト

No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者	No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者
1	キツタ	(未詳)	国府本郷	内山 千代子	14	ヒイラギ	12月5日	生沢	北水 慶一
2	コウヤボウキ	11月21日	国府本郷	北水 慶一	15	ヒイラギ	11月22日	西久保	村田 愈子
3	ジュウガツザクラ	11月10日	西小磯	宮原 恒雄	16	ヒマラヤザクラ	1月8日	西久保	村田 愈子
4	シロダモ	11月27日	西小磯	飯田 福信	17	ヒメツルソバ	11月24日	大磯	保坂 匠
5	シロツメクサ	12月5日	生沢	北水 慶一	18	ビワ	1月5日	西久保	村田 愈子
6	スギ	1月8日	西久保	村田 愈子	19	ホトケノザ	12月1日	国府新宿	吉川 武士
7	セイトカアワダチソウ	12月1日	国府新宿	吉川 武士	20	マルバシャリンバイ	11月27日	大磯	飯田 福信
8	タイアザミ	12月12日	虫窪	吉川 武士	21	ミゾソバ	11月8日	黒岩	北水 慶一
9	ツクバトリカブト	11月8日	大磯	飯田 福信	22	ムラサキツメクサ	11月30日	生沢	簗島 淳子
10	ツワブキ	11月30日	大磯	飯田 福信	23	ヤクシソウ	11月8日	生沢	北水 慶一
11	ナズナ	12月1日	国府新宿	吉川 武士	24	ヤツデ	12月1日	高麗	宮原 恒雄
12	ノゲシ	12月14日	西小磯	北水 慶一	25	ヤマハッカ	11月10日	国府本郷	宮原 恒雄
13	ハマヒサカキ	11月25日	東町	飯田 福信					

表2 展示した果実の写真リスト

No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者	No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者
1	アオキ	11月10日	西小磯	宮原 恒雄	15	サルトリイバラ	11月21日	西久保	村田 愈子
2	アオキ	1月20日	西久保	小山 由雄	16	センリョウ	11月30日	大磯	飯田 福信
3	アオギリ	11月10日	国府本郷	宮原 恒雄	17	ツルウメモドキ	12月1日	国府本郷	宮原 恒雄
4	アラカシ	11月21日	西小磯	北水 慶一	18	トキリマメ	11月10日	西小磯	保坂 匠
5	イシミカワ	11月10日	西小磯	吉川 武士	19	ナンテン	12月6日	高麗	北水 慶一
6	ウバメガシ	12月7日	東小磯	鈴木 昭夫	20	ニシキギ	(未詳)	国府本郷	内山 千代子
7	ガガイモ	12月12日	虫窪	吉川 武士	21	ニセジュズネノキ	12月14日	高麗	鈴木 昭夫
8	ガマズミ	11月19日	国府本郷	北水 慶一	22	ノササゲ	12月1日	高麗	宮原 恒雄
9	カラスウリ	11月10日	西小磯	保坂 匠	23	ノブドウ	11月10日	西小磯	吉川 武士
10	キカラスウリ	11月10日	国府本郷	宮原 恒雄	24	ヒヨドリジョウゴ	12月12日	虫窪	吉川 武士
11	クコ	(未詳)	大磯	中村 ふぢ	25	ピラカンサス	11月21日	西久保	村田 愈子
12	クサギ	11月10日	西小磯	宮原 恒雄	26	ムラサキシキブ	11月10日	西小磯	宮原 恒雄
13	クチナシ	11月30日	国府新宿	簗島 淳子	27	ヤブコウジ	11月24日	国府本郷	北水 慶一
14	サネカズラ	12月12日	虫窪	吉川 武士					

3. 学習参考資料展『みんなで調べた 大磯町の花と実 2012-2013・冬』の開催

調査は2月3日までであったが、調査が完了する43日前の12月22日から学習参考資料展を開催した。学習参考資料展という展示名称にしたのは、小学校理科「生き物のくらし(4)冬の自然」、中学校理科の「植物の世界」の学習に合わせた展示内容にしたことによる。

展示の準備は、調査に参加された方々にもご協力いただいた。12月16日、12月18日、12月19日の3日間で、調査結果の集計として、種類ごとに地図上の確認地点に丸いシールを貼る作業を行なった。

展示の構成は、「赤い実をつける草木の分布」、「ドングリをつける樹木の分布」、「帰化植物の分布」、「冬の花の色々」、「果実の色々」、「町中の大きな木」、「町中の珍しい木」、「ドングリの色々」、「マツボックリの色々」、「木の実の色々」の10のテーマで構成した。

「赤い実をつける草木の分布」、「ドングリをつける樹木の分布」、「帰化植物の分布」はそれぞれの対象植物の分布状況を地図で紹介した。

「冬の花の色々」、「果実の色々」は調査期間に確認した冬の花、果実の写真を紹介するものであった。内容としては、立冬(11月7日)から立春の前日(2月3日)までの期間に大磯町内で撮影された花、果実の写真を展示するものであり、調査に参加された方はもちろんのこと、チラシや展示を見られた一般の方からもご提供いただいた。最終的に当館職員を含めて11人の方々からご提供いただいた。会期中に徐々に手を加え、学習参考資料展初日の写真の展示枚数は44枚であったが、最終的に52枚となった。季節的に徐々に見られる花や実が減っていく時期であったため、春、夏、秋の展示に比べ、写真の枚数が数多く増えることはなかった。展示した写真の一覧を表1、2に紹介する。

「町中の大きな木」、「町中の珍しい木」は、大磯町の地図に大きな木、珍しい木を確認した場所を表示し、あわせて種名も記した。図23、24のとおりである。

また、参考資料として「ドングリの色々」、「マツボックリの色々」、「木の実の色々」において乾燥させた植物標本を展示した。

4. まとめ

当初、冬の植物の展示を計画した際は、展示資料を十分に集めることが難しいと思われた。そのため、状況によっては、学習参考資料展「みんなで調べた大磯町の花と実 2012・秋」の展示資料を一部使用して展示しようと考えたため、同展からあまり期間をおかず企画展を開催した。しかしながら、調査を

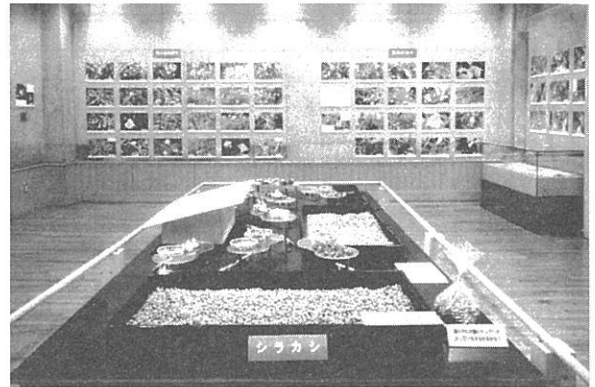


図25 展示風景

とおして企画展示室が十分にうまる量の資料を集めることができた。

これまで春、夏、秋の植物をテーマにした展示では写真が中心の展示となっていたが、本展では乾燥させた実物資料を多数展示することができ、見栄え、見ごたえという点ではこのシリーズの中で最もよいものができたと思われる。

これで四季の植物調査をひとつおりのり終えたことになるが、郷土資料館周辺で見られる植物も毎年、少しずつ変化が見られている。また10年程度の期間において同様の調査を行なうと意義のあるデータが蓄積できると思う。あらためて、数年後に調査を行なってみたい。

最後に調査及び展示準備にご協力いただいた方の名前を記して、感謝申し上げる。

秋山京子・鶴飼レイ子・内山千代子・大久保恵美子・大久保武・小野恵子・加藤喜規・川瀬和江・川原一恵・菊池なつみ・国生ちひろ・国生美香・国生竜之介・小山由雄・清水和子・鈴木昭夫・外川敏子・中村ふぢ・畠山恵子・服部通代・曳野義子・布施鈴子・保坂匠・松島まり子・簗島淳子・宮川紀子・宮原恒雄・村上敦子・村田愈子・柳田利幸・柳田道雄・吉川武士 (敬称略)

5. 参考文献

- 神奈川県植物誌調査会編(2001)『神奈川県植物誌 2001』神奈川県立生命の星・地球博物館
北水慶一(2014)「講座『みんなで町の自然を調べよう～秋の七草の分布しらべ～』及び学習参考資料展『みんなで調べた 大磯町の花と実 2012・秋』の実施報告」『大磯町郷土資料館年報—平成 24 年度—』大磯町郷土資料館
北水慶一(2014)『みんなで調べた 大磯町の花と実 2012-2013・冬 調査結果』大磯町郷土資料館
自然環境研究センター(2000)『第6回 緑の国勢調査 身近な林(秋冬調査編) 調査のてびき』環境省自然環境局生物多様性センター